

今年度、静岡県公立小中学校事務職員会会長を務めさせていただきます御殿場市立御殿場中学校の松井 剛です。皆様の御支援、御協力をいただきながら事業等を進めていきたいと思っておりますので御協力お願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の流行による制限があった生活から、多くのことが、コロナウイルス流行前の生活に戻ってきたのではないのでしょうか。学校においても、流行前に戻したこともあります。流行によって見直されたことを継続していることもあります。新型コロナウイルスの流行は「当たり前のことが当たり前ではない」ことを実体験として感じた時だったと思います。

私たち学校事務職員も、様々な制限の中から『最適解』を見つけながら共同学校事務室での業務を行ってきたことと思います。これからは、今の「当たり前」を「当たり前」とせず、『最適解』を見つけより良い共同学校事務室にしていだければと思います。

さて、令和6年5月に中央教育審議会の「質の高い教師の確保特別部会」の審議のまとめが出されました。その中で、事務職員には、『今後の学校マネジメント機能の強化に資するよう、総務・財務事務の効率化に取り組むことはもとより、“教師等との適切な連携・分担”の下、その専門性を生かして、より主体的・積極的に校務運営に参画すること』が求められています。

また、熱海市・牧之原市での「公立小中学校の学校事務再編」の研究は「教職員の業務を平準化し、教員の子供と向き合う時間の拡充を図るとともに、学校事務職員の学校経営への参画を一層拡大し、経営的視点をもって校長の学校経営を教頭とともに補佐する体制づくり」を目的としています。

いずれも、『教員の負担軽減』と『事務職員の学校経営への積極的な参画』を求めており、事務職員が、校務の一部を担当することに加え、様々な立場で学校に勤務している方をマネジメントしたり、学校と地域をつなぐ役割を果たすこと等が期待されています。私たち学校事務職員は行政職員としての強みを活かし、様々なつながりから得た情報等を活用し、管理職が『最適解』を求めやすくするための、『解』を示していくことも経営参画の一つと考えます。

そして、多くの『解』を示すために、色々なことを考え、つなげることができる力をつけることも必要と考えます。学校や共同学校事務室での業務等を「受け身」で行うのではなく、「自分事」として積極的に取り組んでいただき、自身の知識・経験を増やすことで、定例業務を処理する力だけでなく、今後、必要とされる様々な力をつけ事務職員力を向上させていくことを期待しています。

私たちを取り巻く環境や求められていくことが変わってきている時ですが、会員の皆様と一緒に考えていきたいと思っております。1年間よろしく申し上げます。